

WiSH (We Say Hello!)

平成17年7月 発行：附属病院広報運営委員会

- 1 病院長あいさつ・新任診療科部長紹介
- 2 採用・転入職員紹介(管理部、中央部門)
- 3 採用・転入職員紹介(看護部、研修医)
- 4 広報運営委員会から(次号の予定など)

病院長あいさつ

横浜市立大学附属病院

病院長 原 正道

わが附属病院は、4月から公立大学病院の中で法人化した病院のフロントランナーとして走り始めました。ハード面の全てを新たにとは参りませんが、心では「維新」を思い、病院運営の改革を進めております。

今、最も患者さんが私たちに求める「親切さ」「思いやり」「安全性」に加え、診療の質・効率を考えた科学的で適正な運営を実践することで、横浜市民360万人の人口背景だけを頼りにするのではなく、広く首都圏や日本全国を視野に入れ高度先進医療のリーディングホスピタルを、職員の皆さんと一緒に目指していきたいと考えております。



今回は、院内広報紙の復活を記念して、この春、病院に来られた方々をご紹介します。まずは、「公立大学法人」のスタートと同時に新しく診療科のリーダーとなられた部長の皆さんに診療科の目指す方向や抱負についてお聞きしました。

新任診療科部長紹介

(平成17年4月1日就任)



呼吸器内科 部長

金子 猛 (かねこ たけし)

趣味

テニス、旅行(これまで訪れた国
約30カ国)

肺癌は本邦での癌による死亡原因の第一位であり、COPDも2020年には、世界での死因の第三位になると予想しています。また、睡眠時無呼吸症候群による事故も社会問題として認識されるようになりました。ますます呼吸器内科の活躍の場が広がり飛躍を期待されている中で、その責任の重さを痛感しております。患者サイドに立った心の医療、evidenceに基づいた最良の医療を提供していくことを目指し、また病院の発展に寄与できるよう一層の努力をしていきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

循環器内科 部長

内野 和顕 (うちの かずあき)

趣味

読書(non-fiction)、水泳など
(趣味の時間を持てないのが悩み)

当科の医師は臨床好きで、患者さんに親切な働き者がそろっているのはとてもありがたいことです。また医育機関である病院の循環器内科としての役割も重要と考えています。次世代を担う医学生や研修医の教育にも力を入れ、彼らからもエネルギーをもらって、更に魅力的に世界に向けて情報発信のできる“きらりとひかる”循環器内科であるようこれからも努力したいと思います。



心臓血管外科・小児循環器 部長

寺田 正次 (てらだ まさつぐ)

趣味

整理整頓、高校サッカー観戦

心臓血管外科・小児循環器は大学病院の公立大学法人化と同じく平成17年4月よりスタートした、小児心臓病の診断から治療、管理を外科と小児科が合同で行なう画期的な診療科です。スタート直後より病床のやり繰りと手術に奮闘する毎日が続いています。藤沢市出身(湘南高校、金沢大学卒業)で、患者さんと関連があることも多く、今後も藤沢に住めるように頑張っております。

臨床腫瘍科・乳腺外科 部長

市川 靖史 (いちかわ やすし)

趣味

読書



癌の治療は、放射線、抗癌剤、分子標的剤などによる治療が外科的切除と補完し合いながら効果を高めていく時代です。当科ではこれまで外科が果たしてきた、特に抗癌剤や分子標的治療薬を用いての消化器癌および乳癌の治療を行ないます。常に患者さんと話し合い、患者さん一人一人に適した治療を目指し、時に辛いこともあると思いますが、快適で元気の出る治療にしていきたいと思います。